

教育旅行で中学生が訪問 白鷹町で田舎暮らしを体験

今年も、千葉県八千代市立大和田中学校（5月13～14日）、同勝田台中学校（5月30～31日）、宮城県仙台市立東仙台中学校（5月26～27日）の3校から、全115人の生徒が教育旅行で白鷹町を訪れました。

生徒たちは、それぞれの民泊先で農作業や山菜取り、郷土料理作りなどを体験。慣れない作業に悪戦苦闘しながらも、地域の方に様々なことを教えていただきながら、充実したひと時を過ごしました。

1泊2日という短い期間でしたが、白鷹町の自然と、地域の方の温かさに触れ、多くのことを学んだ生徒たち。お別れ式では、お世話になった皆さんと固い握手を交わし、「また白鷹に遊びに来ます」と再会を約束しました。



全日本冠婚葬祭互助協会と「災害時支援協定」を締結

町は5月13日、一般社団法人全日本冠婚葬祭互助協会（宮嶋敏郎理事）と「災害時における遺体の収容・搬送・安置等の協力に関する協定」を結びました。

本協定は、町内で地震や風水害などの大規模災害が発生

した際に、協会が町の要請に応じ、遺体の収容や安置に必要な機材等の提供、被災者に対する避難場所や炊き出しの提供を行うもの。協定書には、応援の要請に必要な事項などが盛り込まれています。

すこやか鮎っ子養育事業 対象年齢を拡充

子どもの出生時に絵本を贈る「すこやか鮎っ子養育事業」は、今年度から対象年齢を拡充し、1歳6カ月児検診の際にも絵本をプレゼントすることとしました。

平成12年度にスタートした同事業は、絵本を通して親子のふれあいの時間をつくり、子どものすこやかな成長を支援することを目的としたもの。子どもが絵本に触れる機会をさらに増やしたいと、こ

の度の対象年齢拡充にいたりました。

5月11日には、町健康福祉センターに14組の親子が健診に訪れ、3冊の絵本の中から好みの1冊を選びました。絵本が大好きという信夫慧君を連れて訪れた、お母さんの幸子さんは「子どもが絵本を通して、生き物や乗り物の名前を覚えるので、プレゼントしていただけてとても助かる」と笑顔で話しました。

